

2024年5月期決算説明会

2024年7月30日

 **カネコ種苗株式会社**

<https://www.kanekoseeds.jp/>

証券コード: 1376

目次

I	決算概況	3~14
II	2025年5月期 通期予想	15~16
III	中期経営計画 進捗状況	17~20
IV	事業成長戦略	21~45

I 決算概況

連結売上高のセグメント別構成比



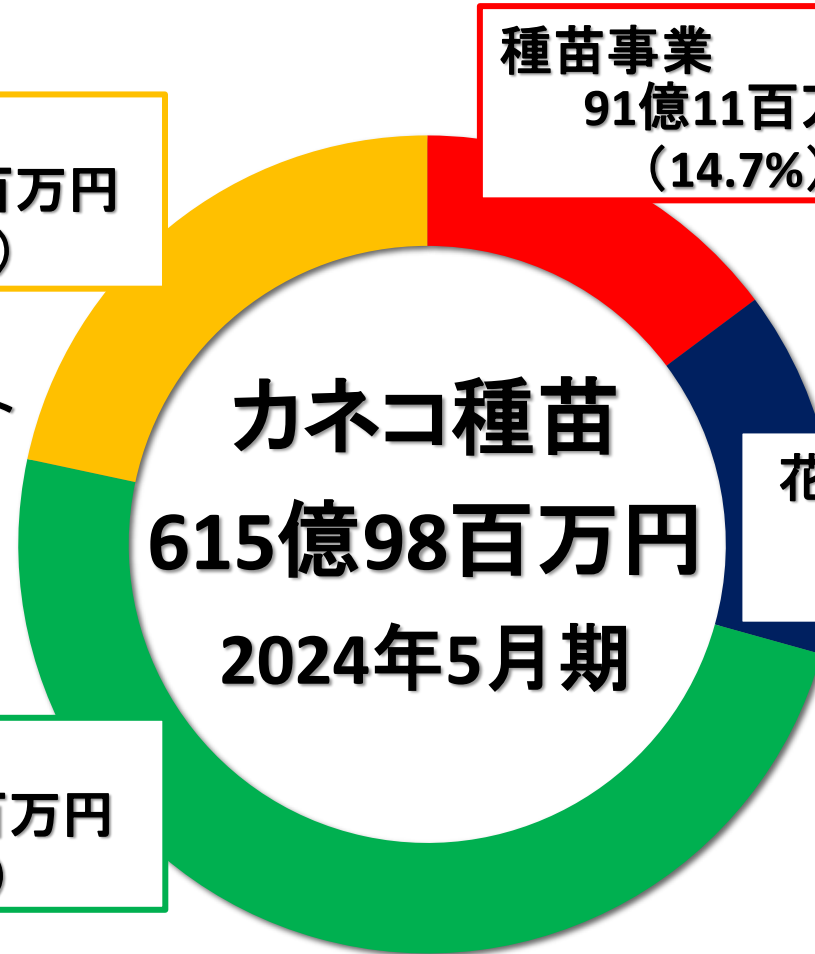
施設材事業
133億37百万円
(21.6%)

農業資材
養液栽培プラント
温室



農材事業
301億99百万円
(49.0%)

農薬
被覆肥料



種苗事業
91億11百万円
(14.7%)



野菜種子
牧草種子
ウイルスフリー苗
及び種イモ
造園・法面工事

花き事業
89億51百万円
(14.5%)



花苗
家庭菜園向け
野菜苗
球根、花種子
家庭園芸用資材

決算ハイライト

【売上高】

- 売上高615億98百万円(前年同期比0.9%減)
- 主に施設材事業において資材高騰による設備投資意欲の減退により減収

【営業利益】

- 14億78百万円(前年同期比17.2%減)
- 人件費の増加や売上減少により農材事業以外の事業にて減益

【経常利益】

- 15億70百万円(前年同期比17.9%減)
- 売上減少に伴う利益減や△61百万円の減損損失計上により減益

【当期純利益】

- 11億77百万円(前年同期比17.4%減)
- 売上減少に伴う利益減により減益

連結損益計算書

	22/5月期	23/5月期	24/5月期	前期比
売上高	60,691	62,179	61,598	△581
営業利益	1,835	1,785	1,478	△307
(営業利益率)	(3.0%)	(2.9%)	(2.4%)	
経常利益	1,909	1,913	1,570	△343
(経常利益率)	(3.1%)	(3.1%)	(2.5%)	
当期純利益	1,302	1,426	1,177	△249
(当期純利益率)	(2.1%)	(2.3%)	(1.9%)	
1株当たり 純利益(円)	111.83	123.63	103.28	△20.35

(単位:百万円)

連結貸借対照表

	22/5月期	23/5月期	24/5月期	前期比
流動資産	38,514	36,220	38,411	+2,191
固定資産	10,418	10,486	10,270	△216
資産合計	48,932	46,707	48,682	+1,975
流動負債	24,650	21,567	23,098	+1,531
固定負債	1,636	1,626	1,142	△484
負債合計	26,286	23,194	24,240	+1,046
純資産合計	22,645	23,513	24,441	+928
負債純資産合計	48,932	46,707	48,682	+1,975
自己資本比率	46.3%	50.3%	50.2%	

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

	23/5月期	24/5月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,590	2,235
投資活動によるキャッシュ・フロー	△499	△486
財務活動によるキャッシュ・フロー	△579	△614
現金及び現金同等物に係る換差額算	7	16
現金及び現金同等物の増減額	△2,661	1,151
現金及び現金同等物の期末残高	2,114	3,265

(単位:百万円)

> 営業活動によるキャッシュ・フロー 概況

税金等調整前当期純利益	+15億 7百万円
減価償却費	+5億12百万円
仕入債務の増加	+14億89百万円
売上債権の増加	△6億56百万円
棚卸資産の増加	△1億75百万円
法人税等の支払	△4億96百万円

> 投資活動によるキャッシュ・フロー 概況

投資有価証券の償還	+2億00百万円
有形固定資産の取得	△5億77百万円
無形固定資産の取得	△1億 2百万円

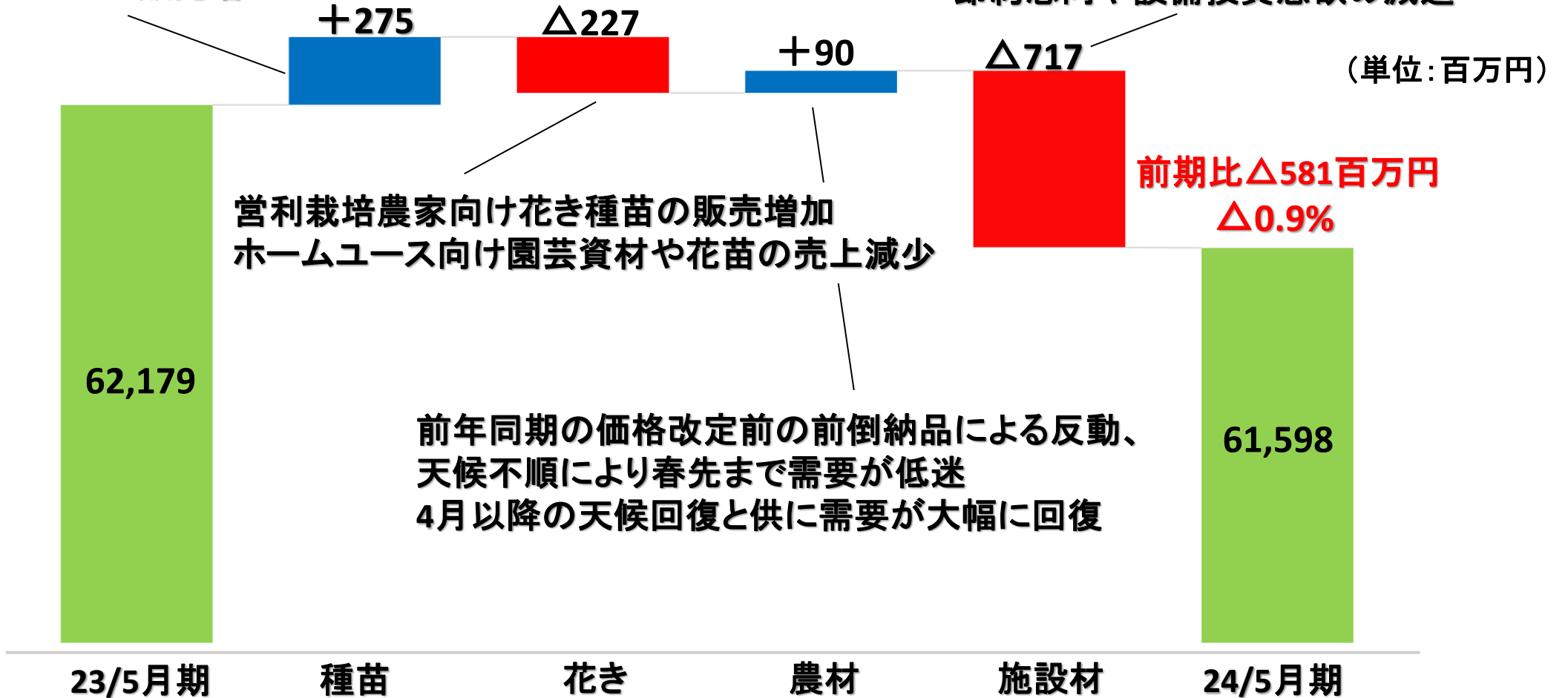
> 財務活動によるキャッシュ・フロー 概況

配当金の支払い、自己株式の取得

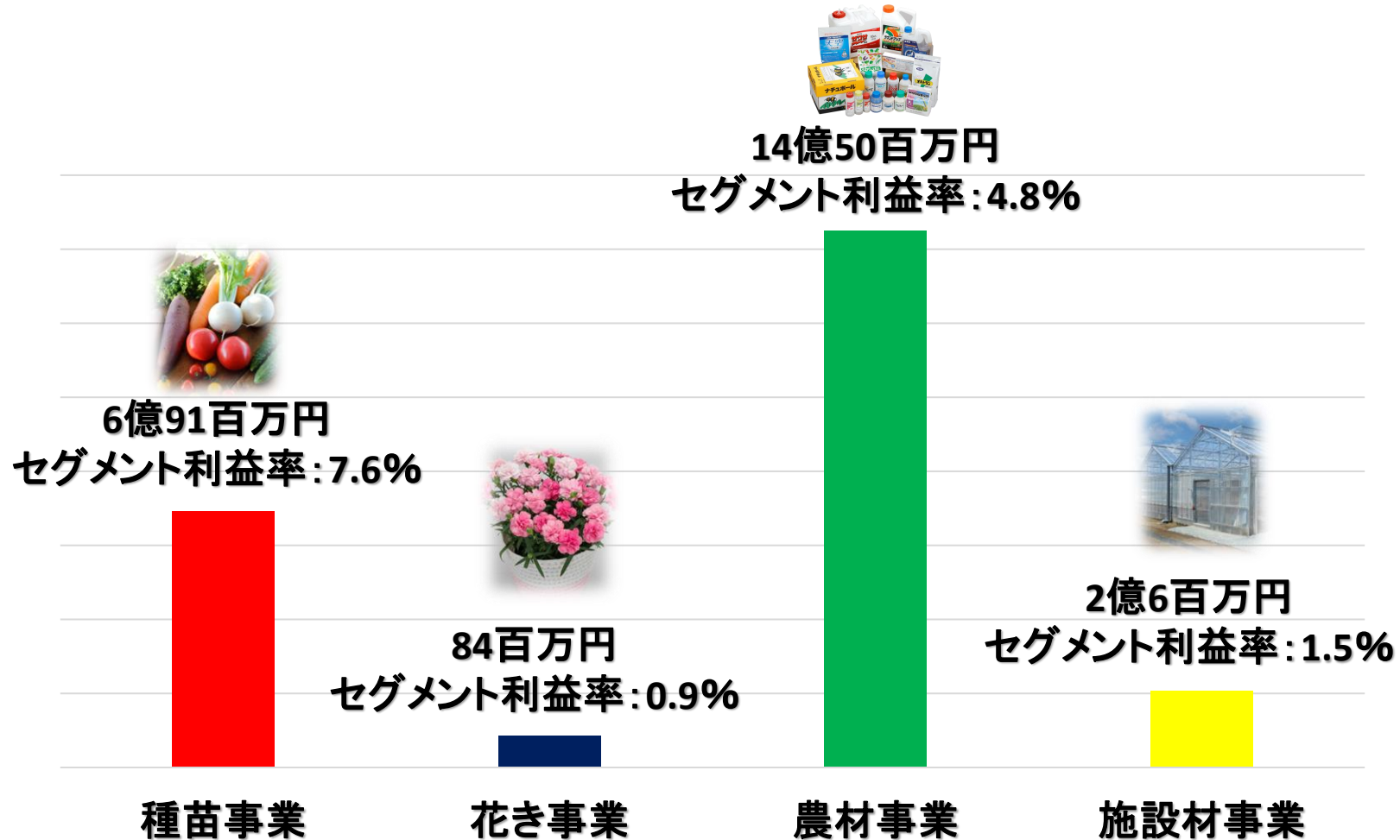
セグメント別売上高の増減要因

野菜種子(カボチャ・キャベツ等)の輸出伸長
飼料用トウモロコシの販売増加

原材料価格高騰による
節約志向や設備投資意欲の減退



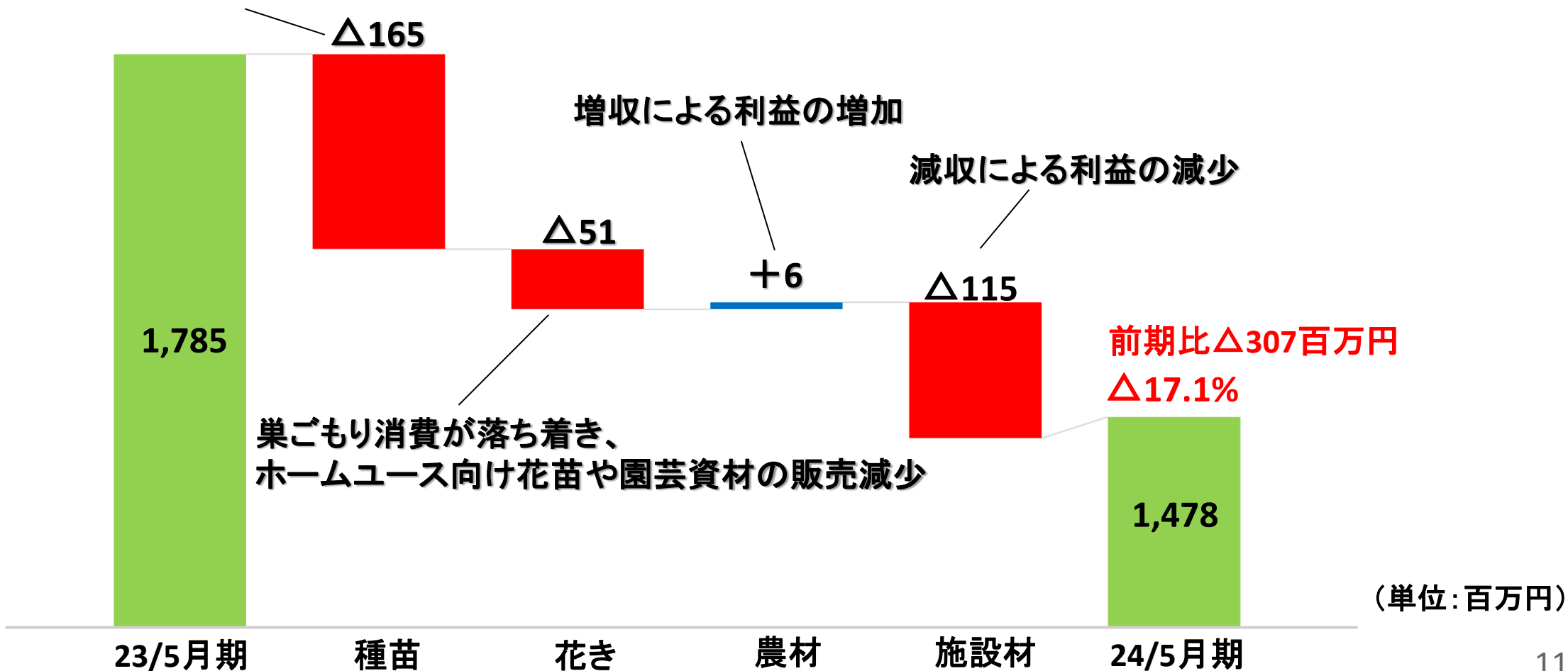
セグメント別利益



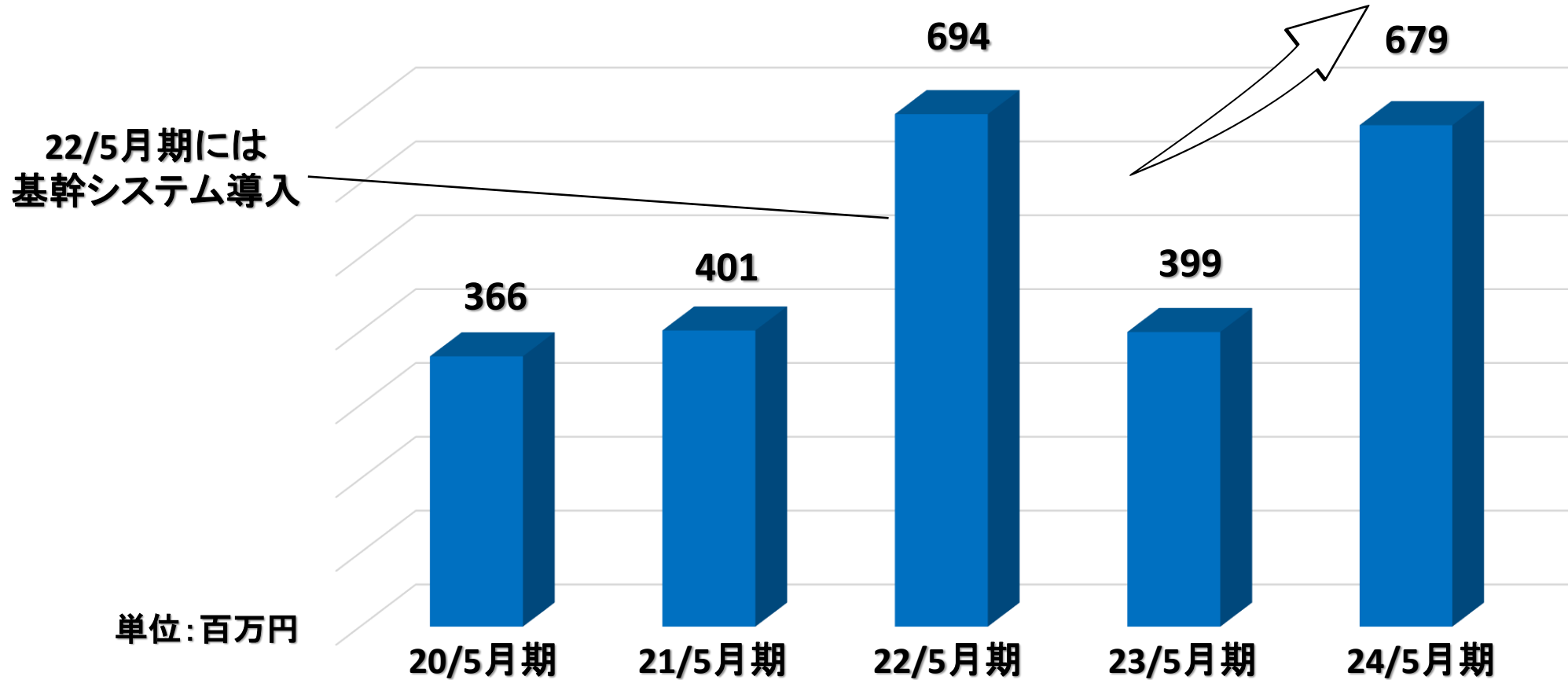
売上・利益の両面で農材事業がけん引

セグメント別営業利益の増減要因

人件費増加や物流保管施設新設
円安による仕入れ価格高騰により減益



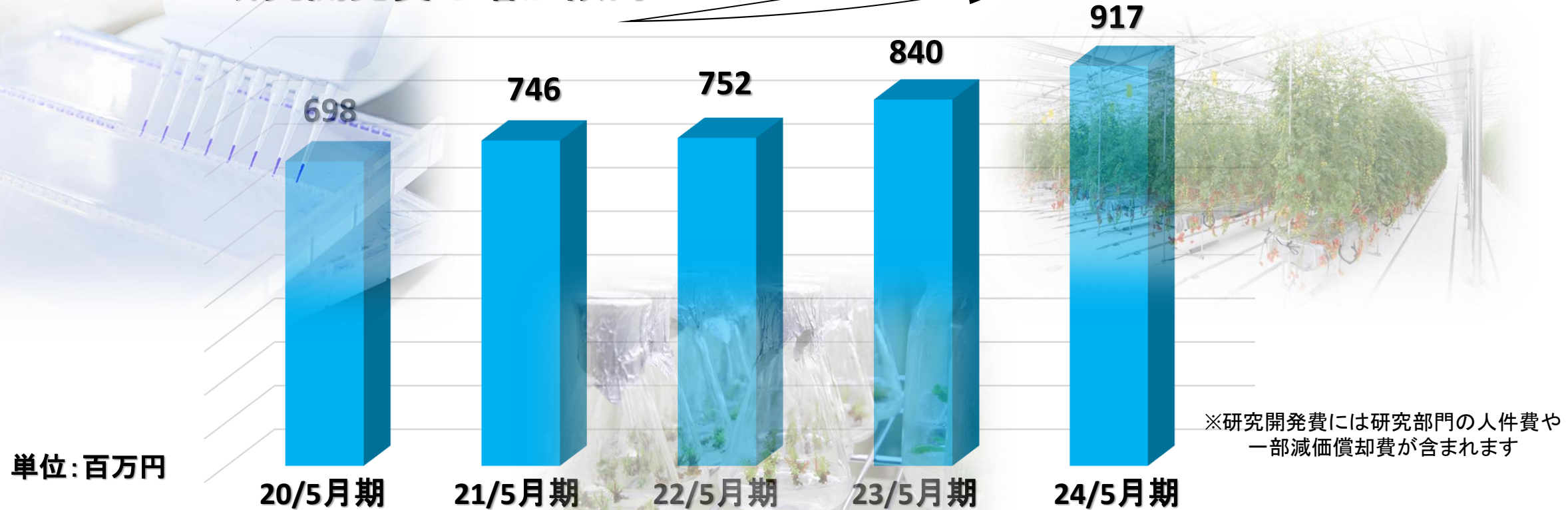
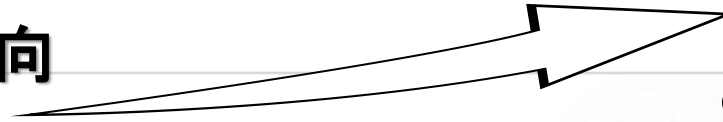
設備投資



24年5月期においては盛岡支店事務所・土地及び倉庫の取得や
当社波志江研究所の研究棟建設等の設備投資を実施

研究開発費

研究開発費は増加傾向

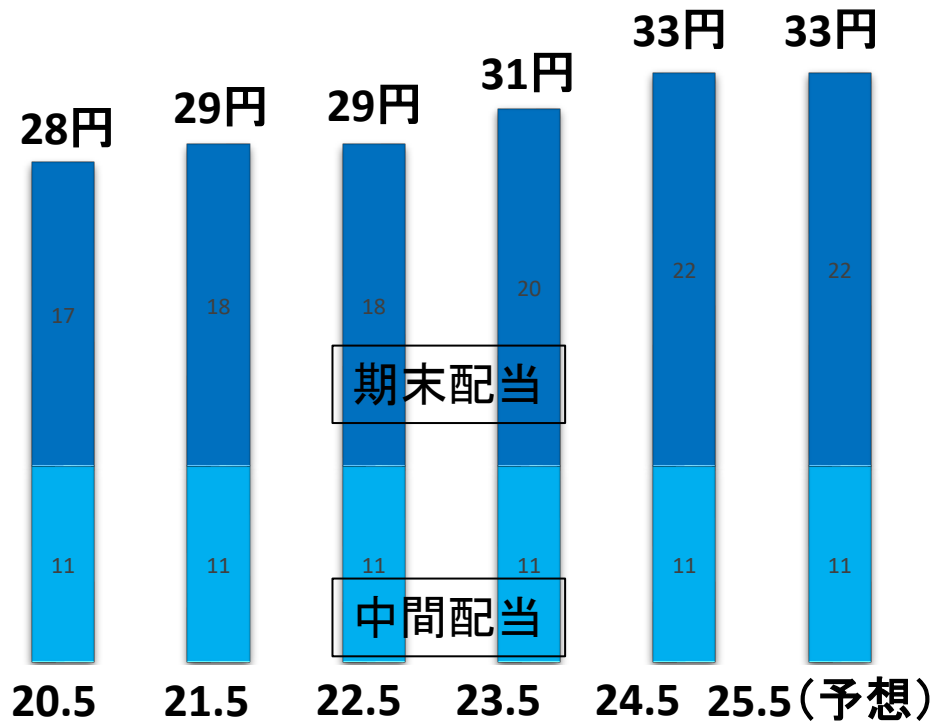


「野菜」「花き」「牧草」の新品種開発、
及び持続可能な生産システムの構築に向けて研究開発を促進

配当政策

2024年5月期における配当は年間33円(2023年5月期 +2円増配)

2025年5月期は年間33円を予定



株主への配当を充実させるとともに、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

	2023年5月期	2024年5月期
配当性向	25.1%	32.0%
総還元性向	39.1%	50.4%

150,000株(216,460,700円)の自己株式取得を実施

※金額は1株当たり

Ⅱ 2025年5月期 通期予想

通期連結業績見通し

(単位:百万円)	23/5月期	24/5月期	25/5月期(予想)	増減	増減率
売上高	62,179	61,598	63,500	+1,902	+3.1%
営業利益	1,785	1,478	1,650	+172	+11.6%
経常利益	1,913	1,570	1,750	+180	+11.4%
当期純利益	1,426	1,177	1,200	+23	+1.9%

売上高

以下の増加要因により、前年同期比3.1%増収を見込む

- 種苗事業 : 野菜種子・サツマイモ苗・飼料作物種子での販売伸長
- 花き事業 : カーネーション・ユーストマ等、営利栽培用花き種苗の販売伸長
- 農材事業 : 気候変動や温暖化による病害虫発生増加に伴う防除農薬の販売増加
- 施設材事業 : 環境問題に配慮した生分解性の農業資材等の需要増加

営業利益及び 経常利益

本社屋の建替えに伴う既存建物の取壊し費用1億30百万円の損失計上を予定するが、増収に伴う利益増などでカバー

当期純利益

営業利益、経常利益の増加により前年同期比1.9%の増益を見込む

Ⅲ 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画の進捗状況

2023年度から2025年度までの3カ年にわたる中期経営計画

	23/5月期計画	24/5月期計画	25/5月期計画
売上高	61,500	62,700	64,000
営業利益	1,850	1,930	2,030
経常利益	1,950	2,000	2,100
当期純利益	1,250	1,330	1,400

(単位:百万円)

中期経営計画の進捗状況

2024年5月期 概要

	24/5月期計画	24/5月期実績	計画比
売上高	62,700	61,598	△1.8%
営業利益	1,930	1,478	△23.4%
経常利益	2,000	1,570	△21.5%
当期純利益	1,330	1,177	△11.5%

売上高

種苗事業・農材事業が増収となったものの、
花き・施設材事業がセグメント計画未達の為、計画比△1.8%

(単位:百万円)

営業利益

農材事業が計画比で大幅に増益となったものの、
種苗・花き・施設材事業部が減益となり、計画比△23.4%

経常利益

農材事業が増益に貢献したものの、
収益率の高い種苗事業における減益が影響し、計画比△21.5%

当期純利益

減収にともなう減益により、計画比△11.5%

中期経営計画の進捗状況

2025年5月期 概要

	25/5月期計画	25/5月期 予想	
売上高	64,000	63,500 (△0.8%)	
営業利益	2,030	1,650 (△18.7%)	
経常利益	2,100	1,750 (△16.7%)	
当期純利益	1,400	1,200 (△14.3%)	(単位:百万円)

売上高

全セグメントにて増収予想も、施設材事業における事業物件数が物価高騰前の水準に回復しきらず、計画比△0.8%の見込み

営業利益

増収に伴う増益を予想するが、人材確保の観点から人件費が増加し営業利益率の低下が予想され、計画比△18.7%の見込み

経常利益

人材への投資を優先し経常利益率の低下が予想され、計画比△16.7%

当期純利益

本社建替えに伴う既存建物の取り壊し費用の損失計上を予定しており、計画比△14.3%

IV 事業成長戦略

当社グループの成長戦略



- 1 経営基本方針
- 2 食料自給率向上に向けて～国内生産基盤強化への対応～
- 3 『花き』の新品種開発
- 4 『サツマイモ』市場への対応
- 5 海外への展開について

経営基本方針

ハイテクと国際化

テクノロジーの進化やグローバル化への対応

農業関連の総合企業

種苗・花き・農材・施設材事業の全国展開

グリーン事業のトータルプランナー

家庭園芸向けから営利栽培向けに『花』の新品種開発を推進

当社グループの成長戦略

- 1 経営基本方針
- 2 食料自給率向上に向けて ～国内生産基盤強化への対応～
- 3 『花き』の新品種開発
- 4 『サツマイモ』市場への対応

食料自給率向上に向けて～国内生産基盤強化への対応～

生産額ベース
食料国産率

※飼料自給率を
反映しない

カロリーベース
食料国産率

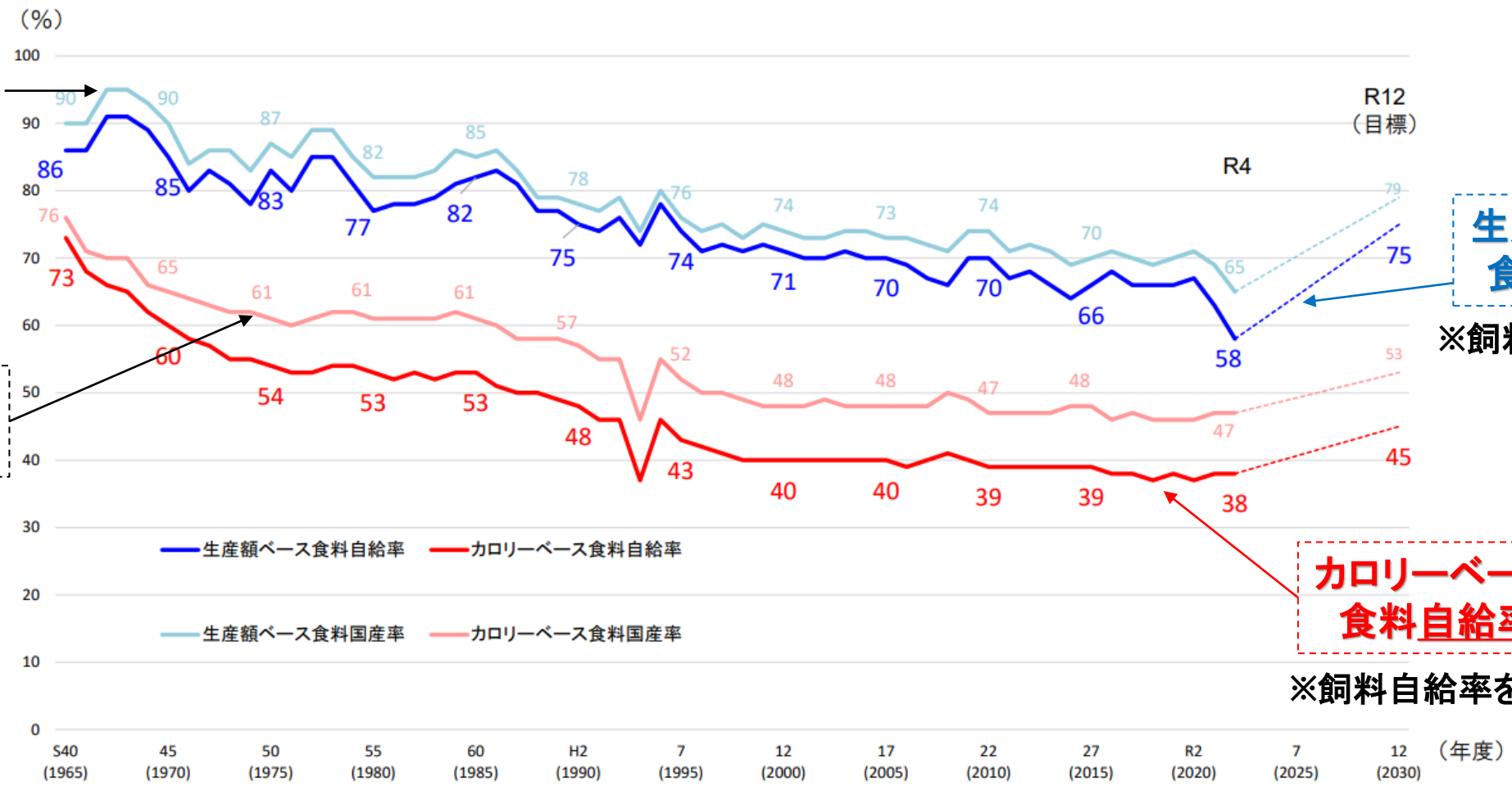
※飼料自給率を
反映しない

生産額ベース
食料自給率

※飼料自給率を反映

カロリーベース
食料自給率

※飼料自給率を反映



2030年度(令和12年度)における目標自給率

農林水産省
「2022年度(令和4年度)食料自給率について」

カロリーベース食料自給率:45% 生産額ベース食料自給率:75%

輸入量が多いタマネギ、ニンジン、ネギ

2023年度 農林水産物輸入概況

野菜(生鮮・冷蔵)輸入量合計	618,869t
タマネギ	241,097t(39.0%)
ニンジン	89,120t(14.4%)
ネギ	57,235t(9.2%)

※かっこ内は輸入量合計に対する割合

(農林水産省 輸出・国際局国際経済課より)

国内消費が多く貯蔵性に優れているため輸入に適しており、
主に加工・業務用で利用される

食料自給率向上に向けて～国内生産基盤強化への対応～

極早生、早生品種

希少な初夏どり品種

貴錦



浜笑



アリオン



白翠



佐賀県 白石地区
長崎県 島原半島
愛知県 県央地域
タマネギ: 貴錦 浜笑 アリオン

埼玉県 県北地域 茨城県 県西地域
ネギ: 白翠

千葉県 県北地域
ニンジン: あけみ

あけみ

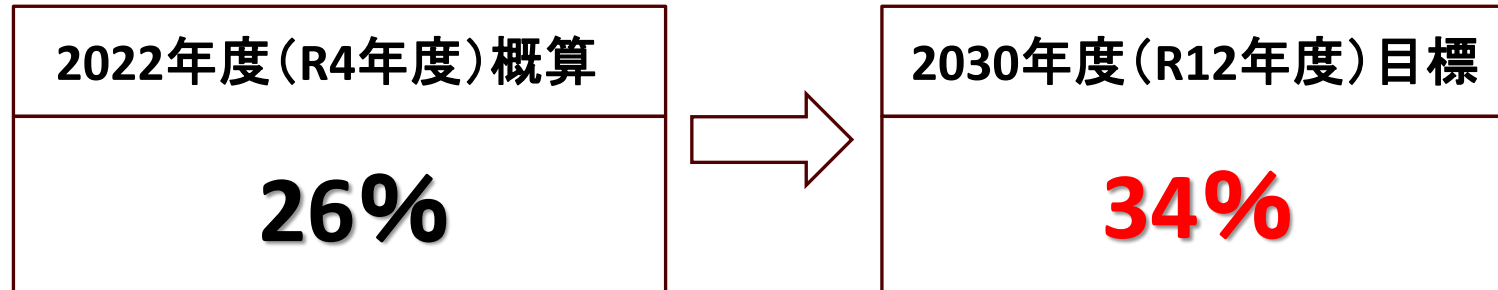


機械収穫に適した
多収性品種

熊本県 菊池地区
ニンジン: あけみ

産地のニーズに合わせて新品種の開発を推進、輸入に依存しない生産体制を目指す

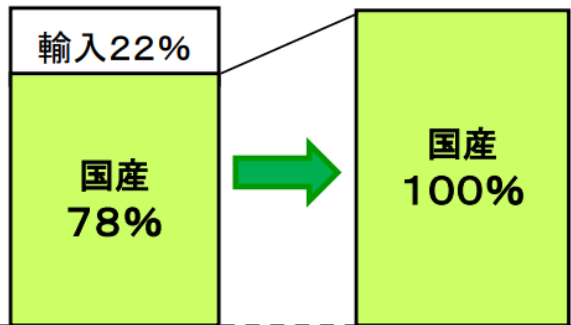
飼料自給率について



粗飼料

(R4年度概算)

(R12年度目標)



主にトウモロコシや牧草を乾燥させ発酵させたもの(サイレージ)

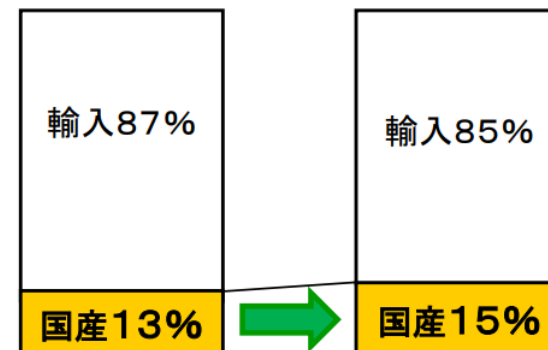
エネルギーやたんぱく質は少ないが消化機能を安定させ、草食動物にとっては必須の栄養源となる

牛・羊等の草食家畜用飼料

濃厚飼料

(R4年度概算)

(R12年度目標)



穀類、大豆かす、ぬか等(配合飼料)

エネルギーやたんぱく質が豊富で、これらの供給源として重要な飼料

牛・豚・鶏用飼料
(豚・鶏に粗飼料は通常給与しない)

粗飼料、濃厚飼料向けに

飼料用トウモロコシ
(サイレージ用、実取り用)



粗飼料向けに

イタリアンライグラス



エンバク

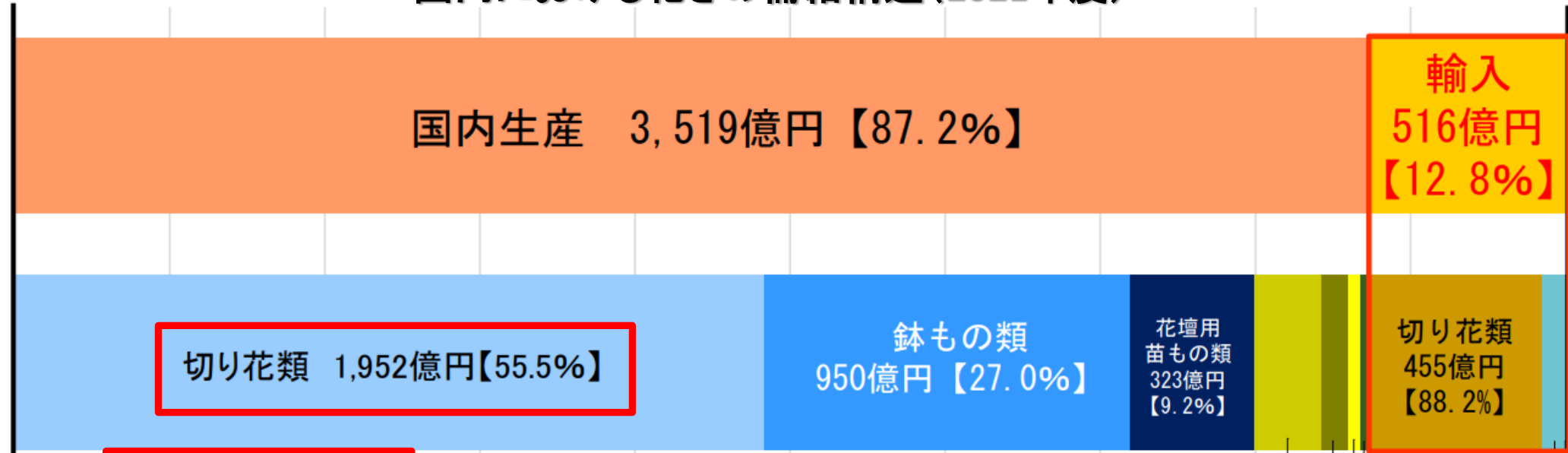


国内育種による飼料作物の新品種開発を推進し、飼料自給率向上に貢献

当社グループの成長戦略

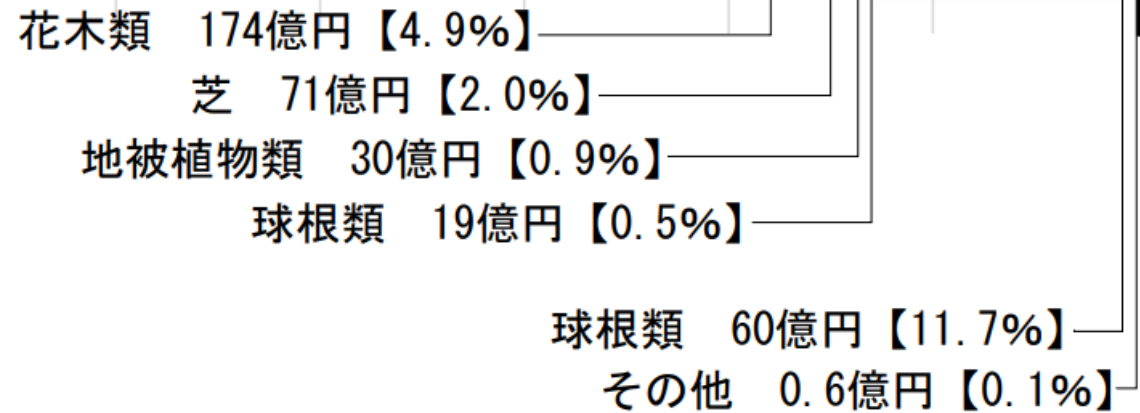
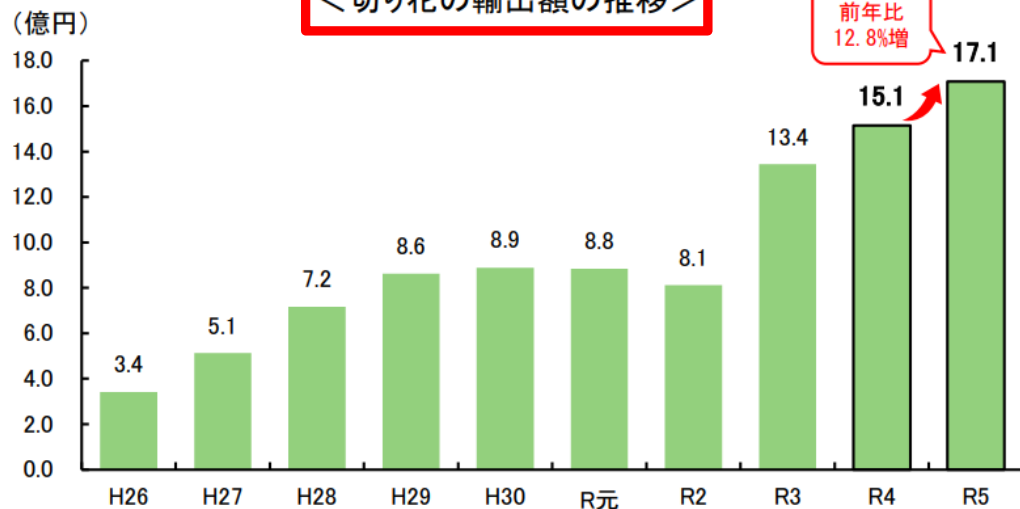
- 1 経営基本方針
- 2 食料自給率向上に向けて ～国内生産基盤強化への対応～
- 3 『花き』の新品種開発
- 4 『サツマイモ』市場への対応
- 5 海外への展開について

国内における花きの需給構造(2021年度)



＜切り花の輸出額の推移＞

前年比
12.8%増



農林水産省「花きの現状について」

国内及び海外におけるユーストマ・カーネーションの受賞歴

ユーストマ(トルコギキョウ)

品種名:エグゼアンティークピンク

2023年

ジャパンフラワーセレクション(日本)
最高賞フラワーオブザイヤー



品種名:カフェドレープ

2024年

ジャパンフラワーセレクション(日本)
ブリーディング特別賞



品種名:エマライトブルー

2023年

ジャパンフラワーセレクション(日本)
ジャパンデザイン特別賞



国内及び海外におけるユーストマ・カーネーションの受賞歴

カーネーション

品種名:ウィーン
2023年

プロフローラ(コロンビア)
スプレーカーネーション部門第1位



品種名:テルミ
2024年

ジャパンフラワーセレクション(日本)
グットパフォーマンス特別賞



品種名:アフォガード
2022年

ジャパンフラワーセレクション(日本)
フォトジェニック特別賞



2024年5月期 新品種開発状況

ユーストマ4品種 カーネーション10品種 デルフィニウム4品種 スターチス・シヌアータ4品種

品種名: エレスアプリコット
(ユーストマ)



品種名: エレスアンティークピンク
(ユーストマ)



品種名: フィーノルージュ
(ユーストマ)



品種名: ポーラホワイト
(デルフィニウム)



品種名: SP1
(スターチス・シヌアータ)

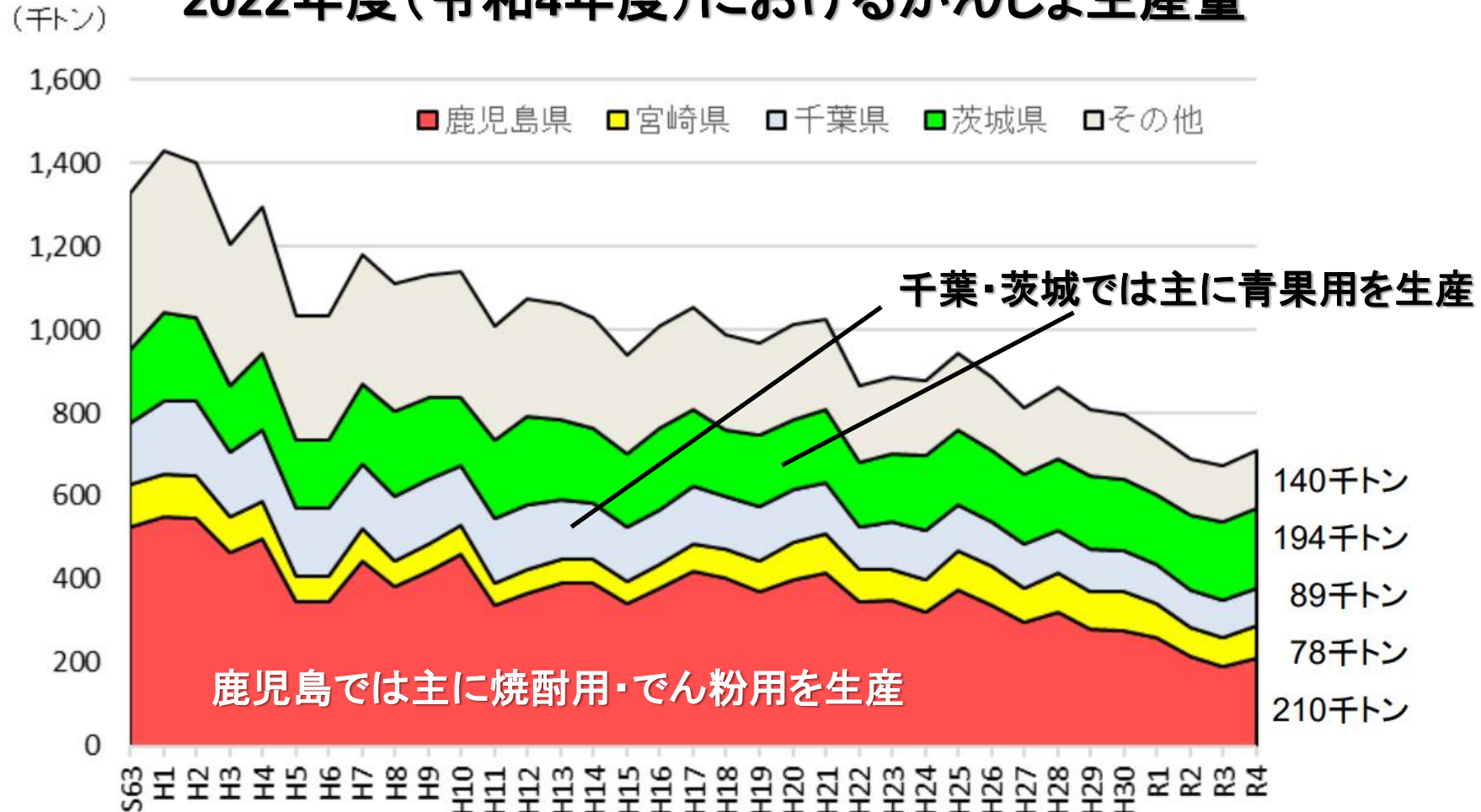


海外も視野に、新品種開発に向けて継続的な投資を実施

当社グループの成長戦略

- 1 経営基本方針
- 2 食料自給率向上に向けて ～国内生産基盤強化への対応～
- 3 『花き』の新品種開発
- 4 『サツマイモ』市場への対応
- 5 海外への展開について

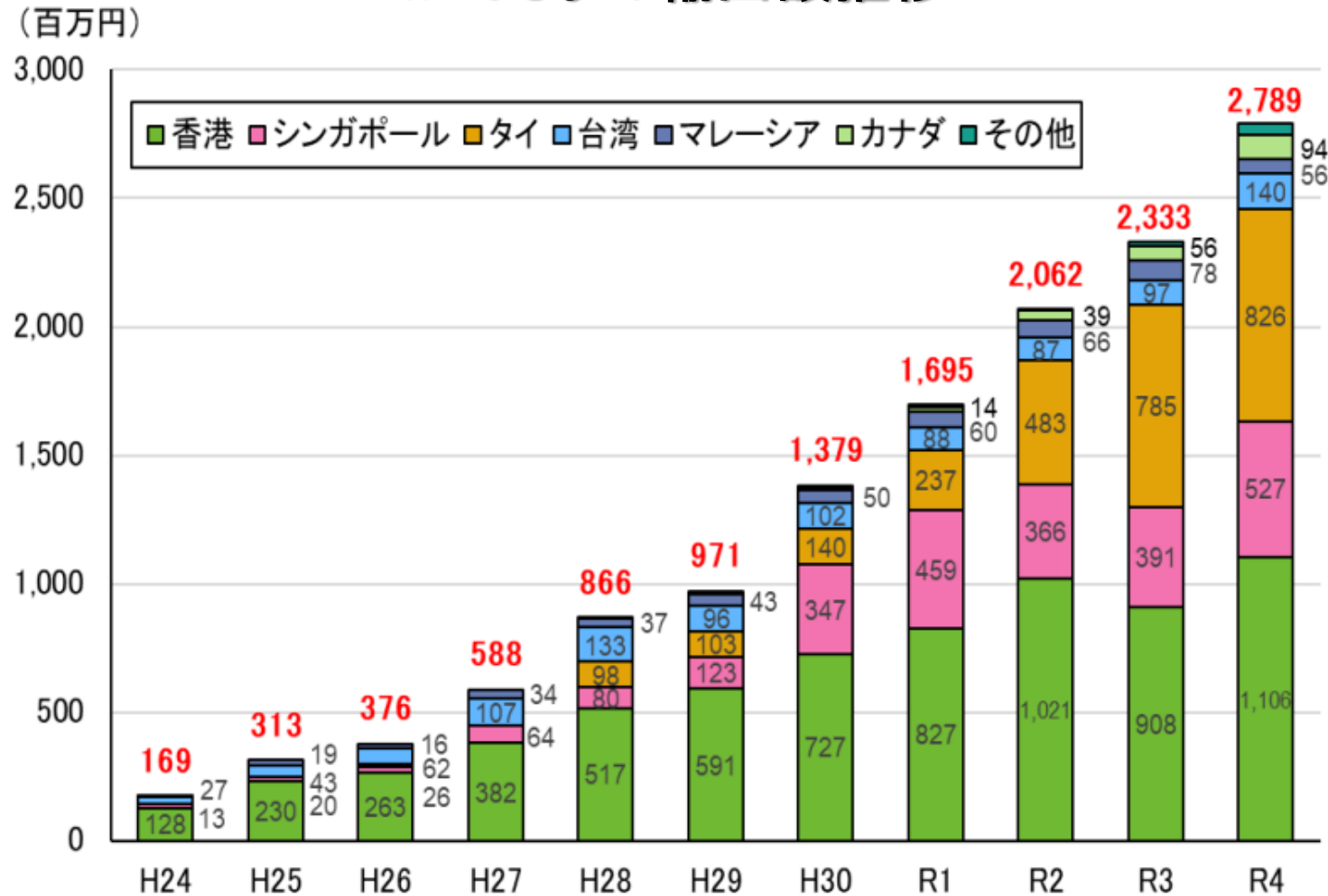
2022年度(令和4年度)におけるかんしょ生産量



農林水産省「かんしょをめぐる状況について」

生産量は減少傾向で推移しているが、令和4年度は前年比6%増加

かんしょの輸出額推移



農林水産省
「かんしょをめぐる状況について」

日本産は甘みが強く海外で人気があり、輸出額は増加傾向

しっとり系 シルクスイート



ほくほく系 栗かぐや



当社育成品種である両品種の拡販体制を構築

当社オリジナルのウイルスフリー苗の推進

新しいサツマイモ産地づくりを目指す

当社グループの成長戦略

- 1 経営基本方針
- 2 食料自給率向上に向けて～国内生産基盤強化への対応～
- 3 『花き』の新品種開発
- 4 『サツマイモ』市場への対応
- 5 海外への展開について

当社における品種開発体制

**KANEKO SEEDS THAILAND CO.,LTD.
(KST)**

日本国内及び海外向けの採種を担当

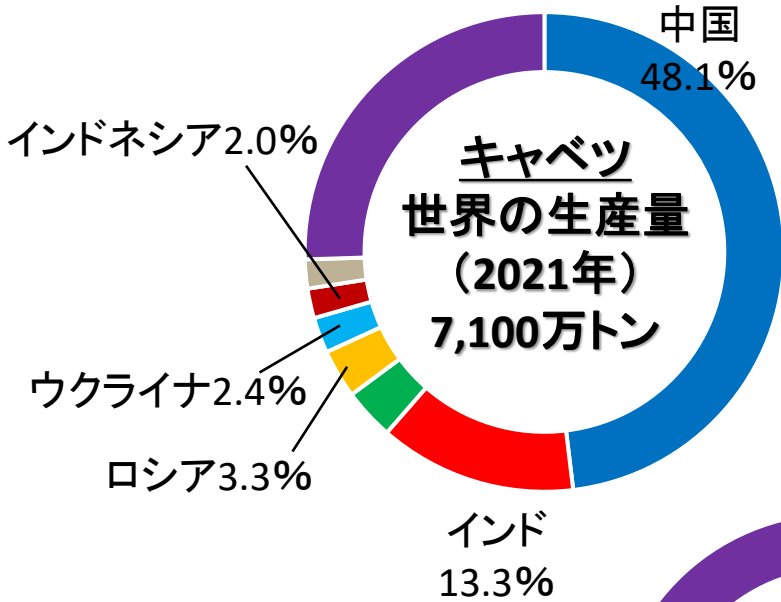


**カネコ種苗
群馬・北海道・宮崎の3拠点
国内及び海外の育種を担当**

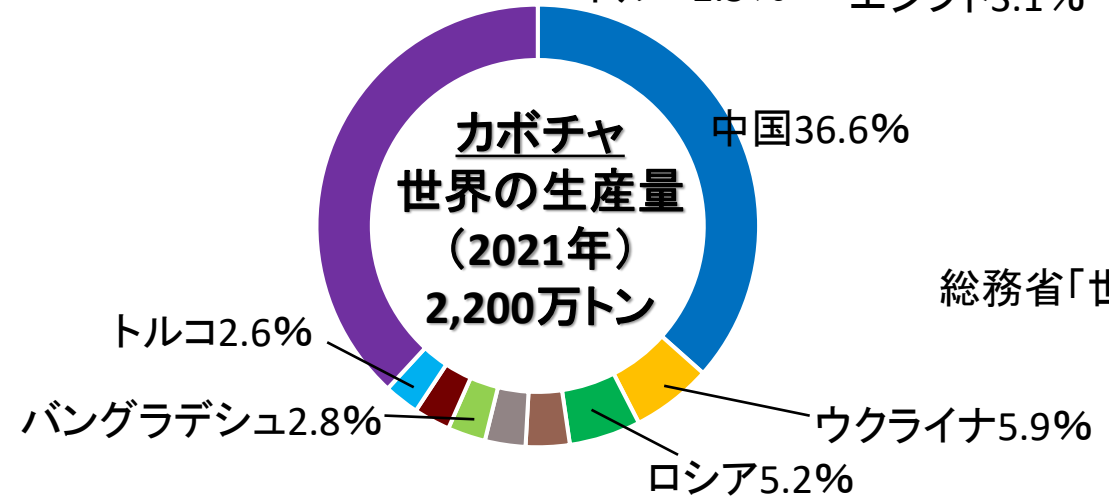
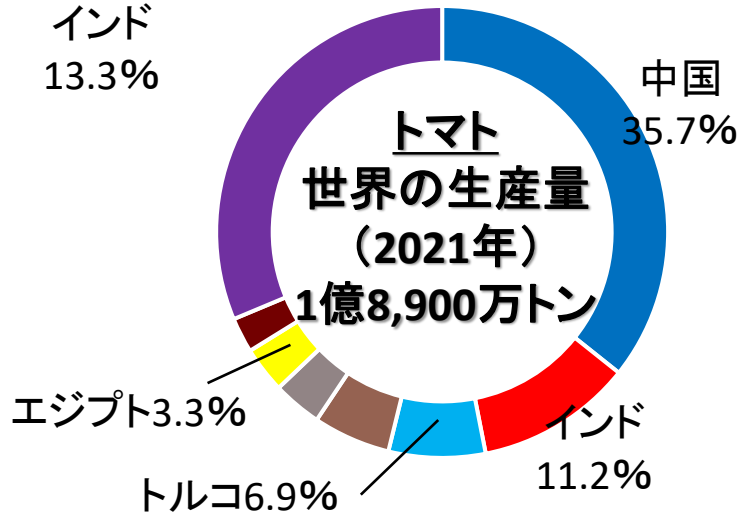
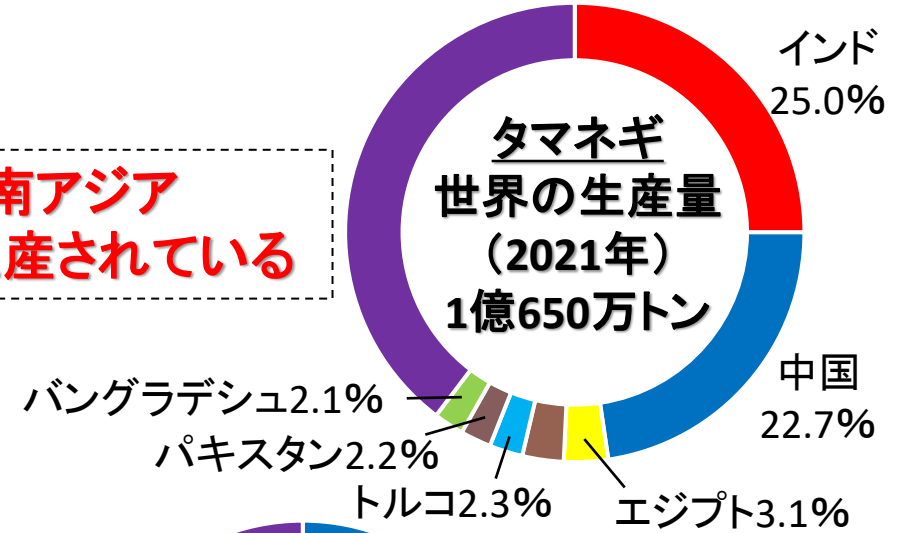
**PILIPINAS KANEKO SEEDS CORP.
(PKS)
育種・生産・販売を担当**

高温多湿の日本や熱帯性気候のフィリピンで長年にわたり育種
現地の気候に合わせて採種体制を構築
海外向けに、強みのあるタマネギ・キャベツ・カボチャ・トマトを中心に品種開発

各野菜の世界における生産量



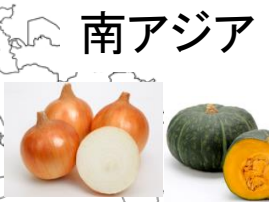
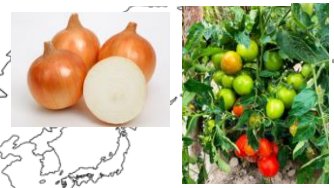
東アジア・東南アジア・南アジア
ヨーロッパ・アフリカ各地で生産されている



総務省「世界の統計」

世界各地に向けた新品種開発

キャベツ
東欧
東南アジア
アフリカ



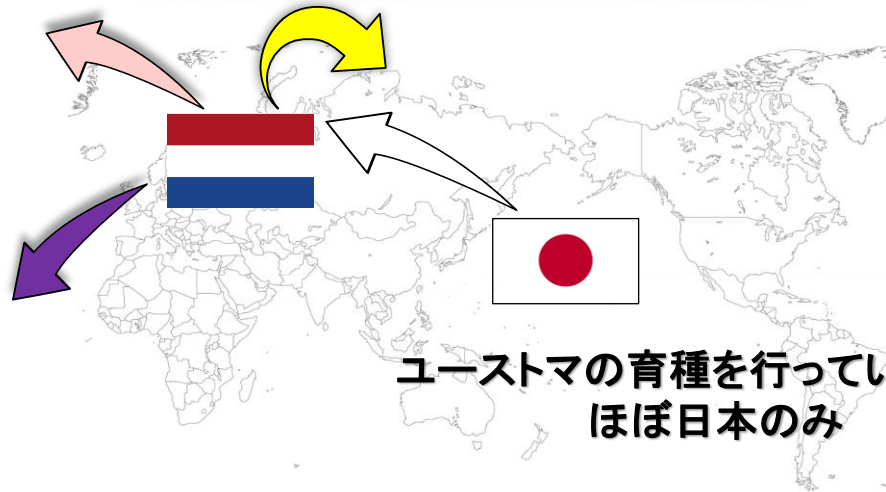
タマネギ
西欧
東アジア
南アジア

カボチャ
東南アジア
南アジア
アフリカ

トマト
東南アジア
東アジア

海外向け花き種苗の開発について

ユーストマ



ユーストマの育種を行っているのは
ほぼ日本のみ

カーネーション

世界最大級の花展覧会コロンビアでの「プロフローラ」にて
スプレーカーネーション部門第1位を獲得



品種名：ウィーン

試作段階にある品種の商品化を進め
KANEKOブランドのカーネーションを世界に展開

切り花輸出世界1位のオランダ向けに新品種開発を推進

本日の要点

- ・2024年5月期は減収・減益に
- ・2025年5月期は売上高63,500百万円、純利益1,200百万円を見込む
- ・増配を実施、自己株式取得も行い株主還元を充実
- ・2025年までの中期経営計画達成に向け、高収益事業に注力
- ・新品種開発を中心としたR&D分野に継続して投資を実施
- ・国内生産基盤強化への対応に努め、持続可能な食料生産システムの構築に貢献
- ・研究部門を強化しKANEKOブランドを海外に展開

カネコ種苗株式会社概要

会社名	カネコ種苗株式会社
所在地	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
設立	1947年6月
代表者	金子 昌彦
資本金	14億91百万円（2024年5月末現在）
上場	東京証券取引所 スタンダード市場
発行済株式数	11,772千株（2024年5月末現在）
従業員数	645名（連結対象会社合計 701名） （2024年5月末現在）
グループ会社	2社（連結子会社 1社・非連結子会社 1社） （2024年5月末現在）
問い合わせ先	専務取締役管理部門・コンプライアンス・IT推進担当 長谷 浩克 E-mail : h-hase@kanekoseeds.jp TEL : 027-251-1619 FAX : 027-290-1056